

# NTTの健康経営を通じた 新しい事業創出へのチャレンジ

---

健康長寿産業フォーラム「健康長寿産業の発展に向けて」

日本電信電話株式会社

執行役員 研究開発マーケティング本部 アライアンス部門長

爪長 美菜子

- 1 **WG2について**  
健康関連データの活用推進ワーキング
- 2 **健康関連データ活用の課題**  
WG2の活動を通じて分かったこと（健康推進担当者1,800件に対してWebアンケート調査）
- 3 **NTTのデータ活用の現状**
- 4 **NTTの課題解決に向けたチャレンジ**
- 5 **最後に**

# 1. WG2について

## 健康関連データ活用推進ワーキンググループ



- 健康関連データを活用した健康経営のユースケースおよび課題の抽出を実施
- そこで得られた成果を健康長寿産業連合会のHP、経産省健康投資ワーキンググループなどで公表

### 取組

- ユースケース創出と課題の抽出  
(例) 健診・血圧・歩数データを活用した心疾患の予防  
健診・歩数データによる有見者への保健指導
- 課題解決策に関する検討

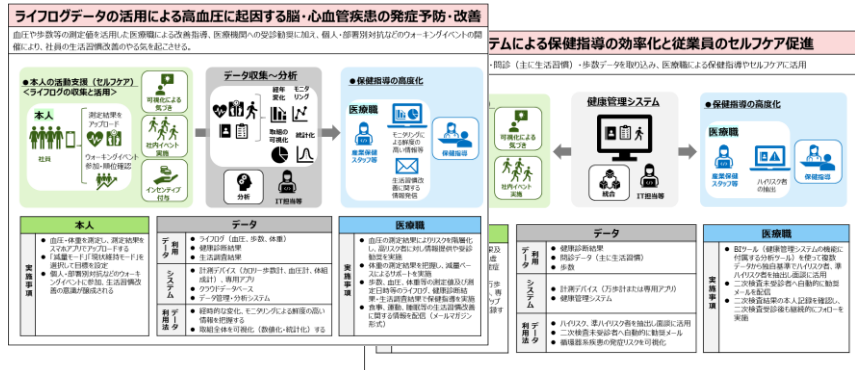


### 公表

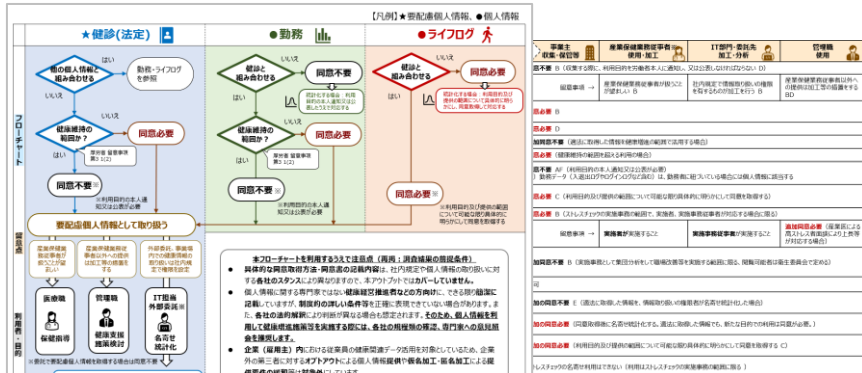
- 実践事例集(健康関連データの活用)
- データ利活用に係る本人同意取得等に関する調査結果

### 過去に公表した資料

#### 健康関連データを活用した健康経営の実践事例集



#### データ利活用に必要となる本人同意取得等に関するフローチャート



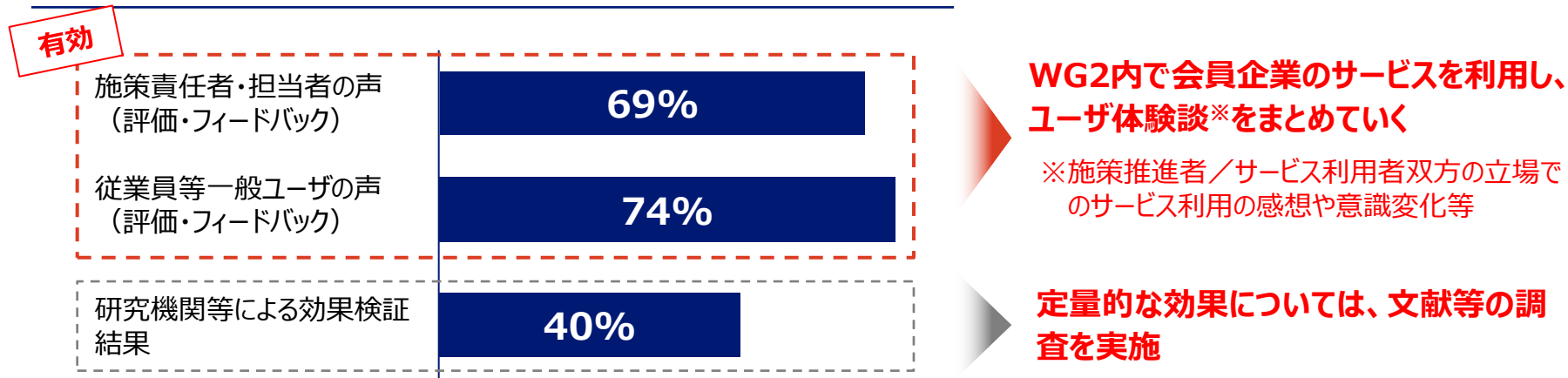
公表 健康長寿産業連合会 <https://www.well-being100.jp/news/20240710635/>  
URL 経済産業省 第12回 健康投資ワーキンググループ [https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/kenko\\_iryoo/kenko\\_toshi/012.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/kenko_iryoo/kenko_toshi/012.html)

# 1. WG2について

健康関連データ活用推進ワーキンググループ

- 健康経営の推進のためには、施策(ウォーキングキャンペーン等)の定量的な効果があることが望ましい。一方効果検証には一定期間のデータ蓄積/分析を要し、稼働や費用の面で実現が難しい
- 現在は、健康経営サービスの効果を示すものとして「ユーザ体験談の作成」と「定量的な効果の文献調査」に取り組んでいる。

期待される効果とエビデンスについて重視する情報開示項目



出典：「職域の心の健康関連サービスの創出と活用に向けて —民間サービスの情報開示のあり方—」  
(2024年3月、職域における心の健康関連サービス活用に向けた研究会)

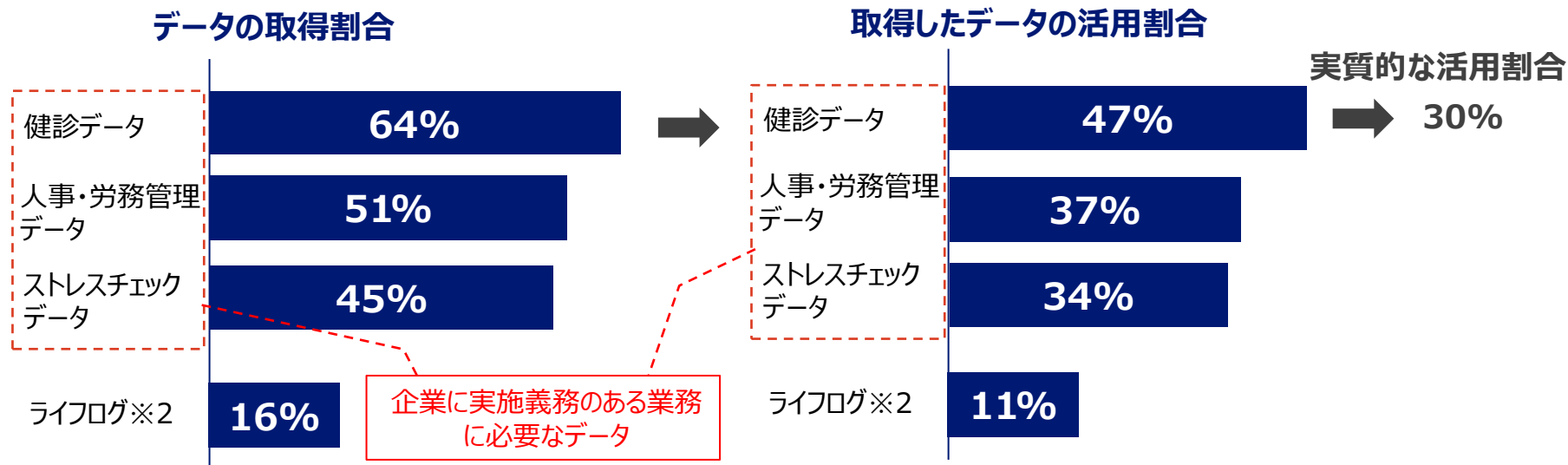
## 2. 健康関連データ活用の課題

WG2の活動を通じて分かったこと（健康推進担当者1,800件に対してWebアンケート調査）

### 企業に実施義務のある業務※1に必要なデータ(健診データ等)ですら、健康経営において取得・活用が十分には進んでいない

※1 労働安全衛生法に基づき企業に実施義務がある業務：  
「健康診断の結果による保健指導」、「長時間労働に対する面接指導」、「ストレスチェックの結果による面接指導」

#### 健康経営に関するデータ活用の状況



※2 日常生活で計測した血圧、体重、歩数 等

## 2. 健康関連データ活用の課題

WG2の活動を通じて分かったこと（健康推進担当者1,800件に対してWebアンケート調査）

### 取得・統合・分析のいずれにおいても、「法制度対応」、「リソース・ノウハウ不足」が課題になっている

#### 健康経営にデータ活用が進まない要因

##### データ取得の課題

###### 法制度対応

従業員からの同意取得のハードルが大きい

31%

個人情報の法規制の観点で収集して良いかわからない

30%

###### リソース・ノウハウ不足

収集する媒体（システム、デバイス）がない

17%

収集を担当する部署（人材）がない

15%

収集方法がわからない

14%

##### データ統合の課題

###### リソース・ノウハウ不足

統合管理する部署（人材）がない

44%

統合管理するコスト（人件費、システム費）が大きい

41%

統合管理するノウハウがない

39%

データ統合に係る組織としての意思決定

26%

統合管理するリスクが大きい

21%

##### データ分析の課題

###### リソース・ノウハウ不足

分析する部署（人材）がない

51%

分析に係るコスト（人件費、システム費）が大きい

42%

分析するシステムがない

40%

分析するノウハウがない

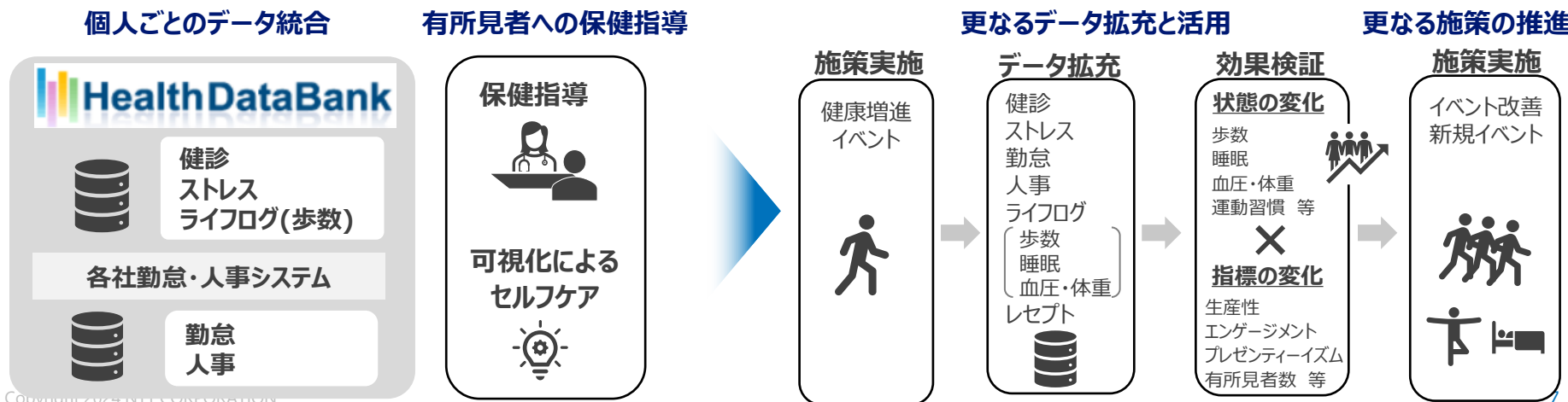
30%

分析するデータが少ない（対象者データの取得率が低い）

17%

### 3. NTTのデータ活用の現状

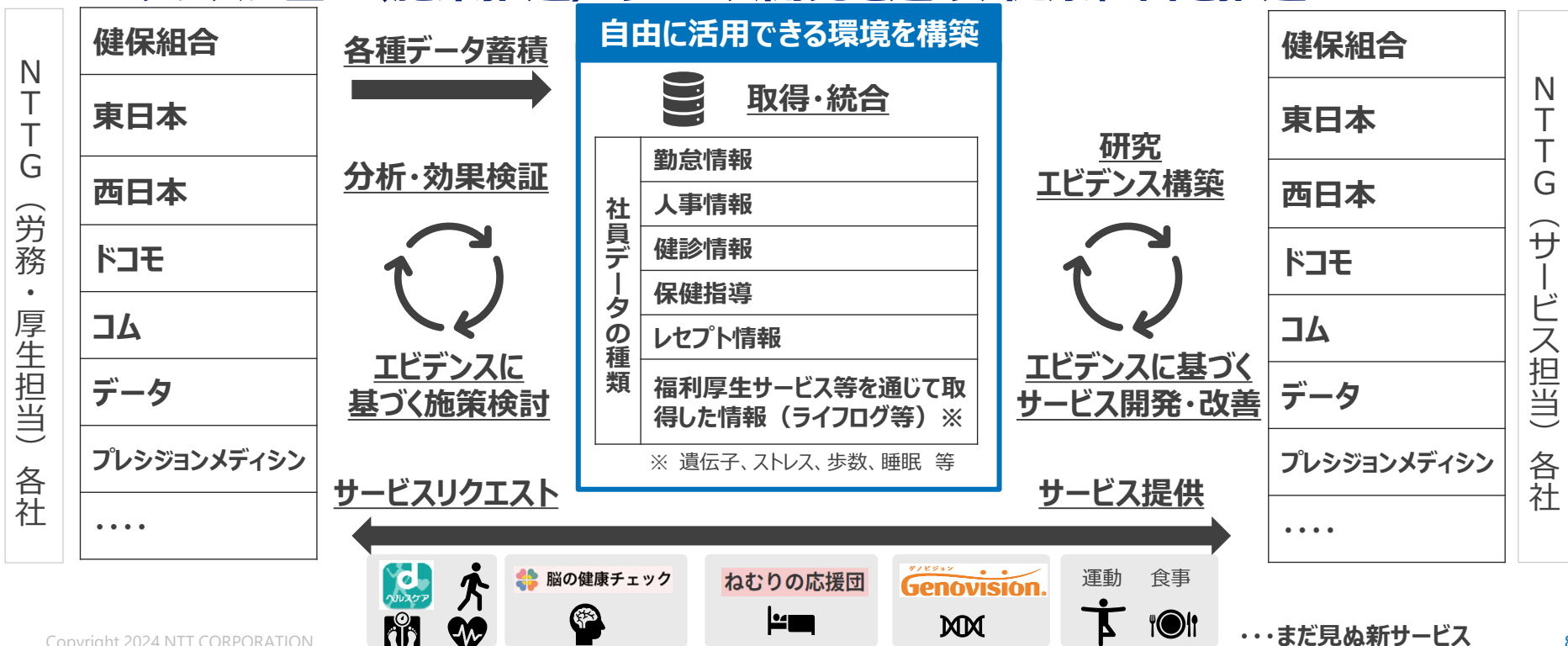
- 自身のセルフケア/保健指導での活用はできているが、各種施策の効果検証（例：ウォーキングをすると生産性があがる？）が課題
- レポートや勤怠情報等もかけ合わせ、施策の効果について様々な角度から分析し、施策の改善につなげていくことが必要



# 4. NTTの課題解決に向けたチャレンジ（実現したい姿）



- ・健診データや勤務情報、レセプト等の多様な社員データを活用できる環境を構築
  - ・労務・厚生担当およびサービス担当双方で多様な社員データを自由に活用
- エビデンスに基づく施策推進／サービス開発を進め、健康経営を推進





## 4. NTTの課題解決に向けたチャレンジ



- 機微情報となるため、多岐にわたるガイドライン・法制度の対応要否の検討が必要。まずは、社員データ活用を可能とする法制度対応から取り組み中
  - 社員に対する個別のアクションを最小限にとどめられる方法がないか検討中
- 検討内容イメージ

### 対象データの検討

データ種類	勤怠情報
	人事情報
	健診情報
	保健指導
	レセプト情報
福利厚生サービス等を通じて取得した情報（ライフログ）※	

### 検討項目の洗い出し

検討項目	グループ会社間での情報連携
	健保組合との情報連携
	サービス部門での活用
	ライフログの活用
	複数データの統合（名寄せ）

### 法制度対応（専門家相談）

検討が必要な主な制度	個人情報保護に関する法律
	雇用管理に関する個人情報のうち健康情報を取り扱うに当たっての留意事項
	プライバシーマークにおける個人情報保護マネジメントシステム構築・運用指針
	事業場における労働者の健康情報等の取扱規程を策定するための手引き
	個人情報保護に関する法律についてのガイドライン

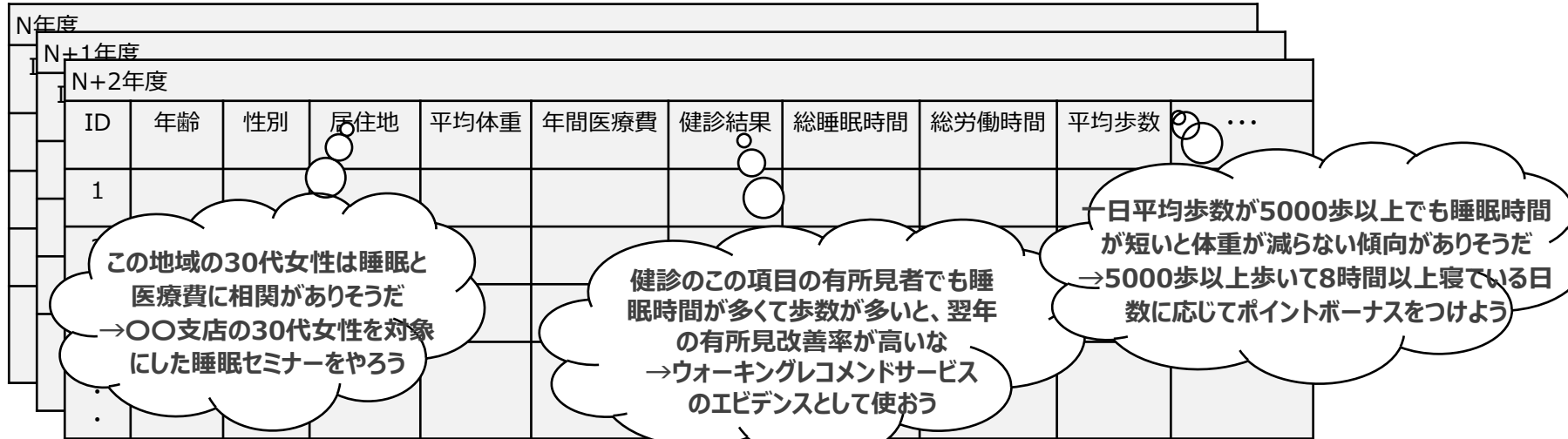
+ 各種社内規程

# 5. 最後に



- NTTのチャレンジは、NTTグループ内にとじた健康関連データ活用の取り組み。
- これが、NTTに限らず、誰でも使えるような健康関連データベースがあれば、様々な業種・業態の企業により多様なデータ分析が行われることで、今までにない気づき・需要が生まれ、更なる健康経営の推進、新たなサービス開発が進んでいくと思われる。

健康関連データベースとその活用方法（イメージ）



***Innovating a Sustainable Future  
for People and Planet***